

平成28年度 西東京市公民館 事業評価表

※ 評価欄 A～D

- A ..十分達成している
- B ..概ね達成している
- C ..今後の努力が必要
- D ..達成できていない

【目的】 西東京市公民館事業評価は、公民館が持つ機能の充実を目指し、事業の改善を図ることを目的とする。

平成28年度 西東京市公民館 事業方針		西東京市公民館事業評価の指標
【基本方針】 西東京市公民館は、地域住民の生活課題や地域課題を見据え、地域づくりにつなげる視点を持って幅広く学習機会を提供し、課題解決に取り組む市民の主体的な学びを支援する事業を実施していきます。 人と人とのつながりを大切にしたい地域社会を創造していくために、住民が学び・育ち、文化創造の担い手となって活動、交流する場として、6館の公民館が十分に機能するように運営していきます。 また、障がい者、外国人、子育て中の保護者などの社会的に制約を受けやすい人へ配慮し、市民だれもが学び集うことができるように、環境の整備に力を注ぎます。 このようにして公民館は、市民が、公民館を拠点に参加と自治を原則とした文化をつくりあげていくことをめざした事業展開を推進していきます。	【重点施策】 平成28年度は上記の事業方針、考え方を受け、重点的に下記の3つの施策に取り組みます。 1、障がい者学級のあり方を展望します くるみ、あめんぼ両学級の現状と課題を整理します。スタッフ、ボランティアの位置づけを確認し直し、研修なども通して集団としての力量形成を図ります。また、障がいがある青年の社会参加の機会を充実させるために増級も視野に入れて方針を明らかにします。 2、届ける社会教育を実践します 市域南部・市域北部などの公民館から比較的離れた地域で、関係機関の協力を得て地域住民に学習機会を提供します。 3、新しい公民館運営体制を構築します ひばりが丘公民館の分室化により西東京市公民館は新体制で運営していくことになります。中央館・分館・分室ともに利用者懇談会の拡充と活性化により利用者の意見を反映した運営に努め、市民参加の運営のしくみを検討していきます。	①「西東京市公民館の事業評価のあり方について」に対する答申(平成23年4月27日)に基づき、公民館事業全体の総合的な評価を行う。 ②数値のみでは表せない視点を盛り込んだ実績も積極的に評価に取り入れる。 ③評価内容は柔軟な評価を目標にして、定期的に見直しを行う。(見直しは検討会議を開催する) ④事業評価の内容を公開する。 ⑤評価結果は今後の公民館事業計画及び運営に反映させる。 ⑥持続可能な社会づくりの観点で評価する。 ⑦市民本位の公民館経営における事業展開を適切に評価する。

	項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
						評価	評価及び課題 [◇・・・評価 ◆・・・課題]	評価	評価及び課題 [◇・・・評価 ◆・・・課題]
(1)	学級・講座	個別事業	【学びの達成や発展】 達成感や学習者の価値観・生活行動の変容、新たな学びへのきっかけや継続につながる事業が展開できたか 相互に学び合う関係性ができたか	・学びの達成感 ・課題の発見や気づき ・自己の意識や能力の変化 ・新たな学びへのきっかけ ・相互学習	・学びの達成感45件 ・課題の発見や気づき72件 ・自己の意識や能力の変化46件 ・新たな学びへのきっかけ46件 ・相互学習38件	B	◇実績の数字は27年度に比べてやや減であるが、引き続き多くの事業で学びの達成、課題の発見や気づき、新たな学びへの継続が確認できた。 ◆さらに多くの事業で、学習の広がりや継続につながる支援を図りたい。	B	◇多くの事業で学びの達成や課題の発見、参加者の意識の変化に繋げることができた。 ◆引き続き、新たな学びを引き出すとともに、学びの達成や発展に至らなかった点を振り返り、さらなる向上を目指してもらいたい。
			【地域課題学習の提供・学習ニーズの反映】 地域や市民の実態、学習ニーズを反映した事業の実施に努めたか 市民が参加しやすい工夫を凝らしたか	・地域課題の取り上げ ・市民ニーズ反映の内容 ・新たな利用者の開拓 ・教育計画の反映	・地域課題の取り上げ26件(26.5%) ・市民ニーズ反映の内容34件(34.7%) ・新たな利用者の開拓62件(63.2%) ・教育計画の反映69件(70.4%) *全事業数98件	B	◇新たな利用者層の開拓に意識的に取り組んできた。また、教育計画の反映に努めてきた。 ◆より地域を知り、地域課題に取り組む必要がある。	B	◇新たな利用者の開拓に努力した。特に、地域防災の取り組みは、新たな利用者の開拓に寄与することができた。 ◆新たな利用者の開拓をさらに推し進めるとともに、5年間で教育計画の項目を網羅できるように事業を進めてもらいたい。
			【学習者の視点】 学習者の視点に立った、適切な事業実施ができたか	・アンケートによるプログラム・講師・運営に対する学習者の満足度	学習者の声 (A:満足 B:ほぼ満足 C:やや不満 D:不満) プログラムの満足度／AとBが合わせて98.6% 講師の満足度／AとBが合わせて98.7% 運営の満足度／AとBが合わせて97.7%	A	◇アンケートの結果、学習者の声から、満足度は高いと評価できる。 ◆引き続き参加者の評価をきめ細かく分析し、次の計画につなげていく必要がある。	A	◇参加者の満足度は高いことが読み取れる。 ◆少数意見にも目を向けつつ、今後もアンケートの結果を事業に生かすことを期待する。
			【プロセス重視の運営】 プロセス重視の事業企画・運営に努めたか 市民の主体性を尊重し、自治能力の向上につながる学習の支援ができたか	・実行委員会、準備会 ・参加型の学習(グループワーク、ワークショップ等)の工夫 ・学習成果の発表	・実行委員会8件／準備会8件 ・参加型の学習の講座実施数55件 ・学習成果の発表21件	B	◇参加型学習は多くの講座に取り入れられており、学習者の主体性・プロセスを重視した講座運営が定着しつつある。 ◆公募による準備会方式で企画する講座を増やす必要がある。	B	◇参加型の学習が多く、学習者の主体性を尊重した講座運営が定着しつつある。 ◆学習成果の発表はもちろん、講座終了後も主体的に学び続けるための支援が求められる。
			【協働・連携、協力の視点】 協働や連携の視点で事業を企画・実施することができたか	・他部署、他課との協働・連携、協力 ・他教育施設との協働・連携、協力 ・地域NPO等との協働・連携、協力 ・地域の人材との協働・連携、協力	協働・連携、協力事業57件	B	◇多くの関係機関等との協働・連携、協力は進んでいるが、課題を共有し相互に理解して事業を展開しているものはまだ少ない。 ◆29年度評価では協働、連携、協力それぞれの取り組みを明確にし、現状分析と課題の整理をしていく。	B	◇多くの機関等との協働・連携・協力でできていることは評価できる。 ◆協働・連携・協力するにあたって抽出された課題を分析するとともに、特に小中学校と連携した事業の推進を期待する。
			【だれもが学べる学習機会の提供】 社会的に制約を受けやすい人への配慮も含め、幅広い対象に向けて、学習の機会を提供することができたか	・青少年対象・親子対象・子育て中の保護者対象・高齢者対象・障がい者対象・外国人対象などへ向けた事業実施 ・学習支援保育事業(※1)の実施	青少年対象12件／障がい者対象2件／親子対象13件／成人対象44件／高齢者対象4件／子育て中の保護者対象2件／子育て中の女性対象(学習支援保育)5件／男性対象1件／男性対象(学習支援保育)0件／女性対象1件／女性対象(学習支援保育)6件／外国人対象0件／外国人対象(学習支援保育)2件／多世代交流3件／視聴覚事業5件／地域交流事業18件／その他1件 ・学習支援保育付き事業16件	B	◇幅広い層の多様なニーズに応え、様々な課題に取り組むために、全館が協力して、計画的に事業を企画、実施した。 ◆地域の課題を反映した事業を実施するために、今後も、全館が協力して計画的に事業を企画、実施していく必要がある。	B	◇比較的、幅広い層を対象とした事業が展開できている。 ◆それぞれの事業に期待した対象者が参加できたかを分析することが必要である。また、引き続き、マイノリティへの配慮をするとともに、多くの市民が参加できる事業の展開に期待する。
			【学びの課題】 多様な地域課題や社会的課題に対して、解決に向けた学習の機会を提供することができたか	子育てに関する事業、環境に関する事業、人権、平和に関する事業、男女共同、生きがい、仲間づくりに関する事業等の実施	子育て14件／家庭教育8件／労働6件／貧困問題2件／高齢者問題5件／防災9件／障がい者3件／男女共同参画4件／人権12件／平和2件／環境8件／健康8件／国際理解6件／まちづくり12件／メディアリテラシー2件／食育4件／仲間づくり30件／生きがいづくり12件／その他4件(日本語1件／歴史1件／郷土史1件／社会課題の提示1件)	B	◇全館で多様な課題を取り上げた事業を実施してきた。 ◆実施事業のバランスと各館の地域課題が反映されているか検証していく必要がある。	B	◇幅広い課題に対して、事業の実施ができたことと評価できる。 ◆取り組むべき課題に対して、全館でバランスよく、かつ、漏れなく実施することが課題。共通・類似する課題については、担当者で情報を共有することを求めたい。
		重点施策	重点施策に取り組んだか	1、障がい者学級のあり方の展望 2、届ける社会教育の実践	1、障がい者学級のあり方の展望 検討会議4回 2、届ける社会教育の実践 2件	B	◇障がい者学級の現状について課題の整理を進めた。 中央館で新町を会場に講座を開催した。 ◆引き続き障がい者学級の課題を整理し、今後のあり方を検討していく必要がある。 引き続き届ける社会教育を行っていく必要がある。	C	◇公民館へのアクセスがよくない地域への届ける社会教育の実践は大いに評価できる。 ◆障がい者学級は重点施策にも関わらず、課題の整理にとどまってしまう。引き続き、課題の整理を進めるとともに、具体的な方策を示すことを強く要望する。

	項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
						評価	評価及び課題 [◇・・・評価 ◆・・・課題]	評価	評価及び課題 [◇・・・評価 ◆・・・課題]
(2)	施設管理	環境整備	【安全・安心のための管理と運営】 市民が利用しやすい教育施設の計画的な管理・運営を行う	・施設改修 ・定期点検 ・バリアフリー ・危機管理 ・個人情報の保護	・サイクルゲート歩行者通路の改修(柳沢) ・外壁・防水工事(ひばりが丘) ・看板の設置(保谷駅前) ・第1・第2学習室ガラリ修繕工事(芝久保) ・エレベーター、AEDの保守点検 ・消火器の点検 ・危機管理マニュアル(不審者、クレーム)の更新 ・個人情報の適切な管理	B	◇各公民館は、施設や設備の老朽化に伴い、計画的な施設改修及び適切な修繕等の工事を実施した。 ◆今後も利用者の安全安心を確保するために、計画的に施設改修及び修繕や工事に取り組む必要がある。	B	◇計画的な改修、改善により、安全性の確保や利便性の向上に繋がっている。 ◆公民館によっては、安全性の問題がある箇所が存在するため、早急な改善が求められる。また、ひばりが丘公民館の分室化による危機管理上の課題整理が必要である。
			【学習環境としての整備】 市民の学習権を保障する施設として、エコの観点に配慮しつつ、利用者が快適に使える環境整備を行う	・学習支援としての備品、貸出し物品の定期点検、整備 ・障がい者や高齢者、幼い子を持つ母親等に優しい施設環境の整備(エレベーター、トイレ、授乳スペース等) ・節電や省エネ等の適切な実施 ・団体連絡箱の適切な提供 ・印刷機等の提供	・備品定期点検を年1回実施 ・各部屋の状況確認、貸出物品の整備・修繕を適切に行っている ・電灯の間引き、扇風機の導入等で計画的に適切な節電を進めた ・団体連絡箱利用の更新(年1回)を行っている ・求めに応じて、印刷機等を適宜提供した	B	◇定期的に備品や設備の点検・修繕を実施すると共に、扇風機の導入による節電に努めている。 ◆貸出物品等の点検・修繕は、限られた予算内で計画的な予算執行を行う。施設内の環境は、市民の健康に配慮し、活動に支障のない範囲で、利用者の理解を得、節電に努めていく。	B	◇備品の点検や整備、修繕は定期的実施されている。 ◆施設設備や備品の整備・修繕等は利用者の意見にも耳を傾けつつ、予算の中で計画的に進めるよう、努めてもらいたい。
			【情報収集・発信の場】 情報収集・発信の場として十分に機能するように、ロビーを中心に計画的な管理・整備に努める	・館内掲示箇所の整備 ・公民館だよりの館内整理 ・定期刊行物の整理 ・チラシ、会員募集等の随時整理	・ロビーや館の掲示箇所を適切に活用している ・公民館だより、定期刊行物などを見やすくストックしている	B	◇館内掲示物やチラシの配置などの整備を行い、適切な管理に努めた。 ◆チラシの内容による分類分けや見やすい配置を工夫するなど分かり易い情報発信に努める。	B	◇適正な管理の成果として、ロビーを中心に、情報の収集・発信の場として寄与している。 ◆今後もロビーの重要性は増すため、引き続きレイアウトや整理手法に考慮し、より良い情報発信に期待したい。
		防災	【防災】 地域防災力の向上と防災を意識した施設管理に努める	・防災訓練の実施 ・防災対応マニュアルの作成 ・防災備品の管理 ・帰宅困難者一時滞在施設としての整備	・防災訓練の全館同時実施(併設館は図書館と合同で実施) ・意識向上のポスター等の掲示 ・防災対応マニュアルの更新 ・防災備品の点検 ・帰宅困難者一時滞在施設開設・運営にかかるマニュアルの検討 ・市の帰宅困難者一時滞在施設訓練に参加	B	◇各公民館での防災訓練と6館の公民館が関係各課と連携し合同訓練を実施した。 ◆図書館及び関係部署との連携強化を図り、より市民との連携を深めることが課題である。今後も、全公民館・図書館合同での災害に関する訓練を実施していく必要がある。	B	◇関係各課とも連携し、防災訓練が実施されたことに評価したい。 ◆マニュアル等が適切に機能するかどうかを検証するとともに、防災訓練の質を向上し、災害時に迅速かつ適切な対応ができるように努めてもらいたい。

	項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
						評価	評価及び課題 [◇・・・評価 ◆・・・課題]	評価	評価及び課題 [◇・・・評価 ◆・・・課題]
(3)	窓口業務	広報	【公民館だより】 公民館だよりを通して、市民に公民館や地域に関する情報を発信する	・公民館だよりの定期発行 ・編集室会議、担当者会議による内容の充実	・年12回の公民館だよりの発行 ・編集室会議、担当者会議を各月1回実施	B	◇市民参加型のコーナーを設けた。地域の情報の提供と、公民館事業への参加を促す紙面づくりに努めた。 ◆公民館事業へ興味を持ってもらえる内容の記事づくりと、さらに多くの市民に読まれる工夫が必要である。	B	◇公民館だよりの内容やレイアウトの質が高く、評価できる。公民館ならではの記事が社会教育施設としての公民館の意義を大きく示している。 ◆公民館だよりを手にとらない市民もいるため、引き続き、読者層を増やす努力をすること。
			【幅広い広報】 事業に關しての広報を、公民館だより以外の様々な手段や媒体を利用して行う	・チラシ、ポスターの掲示・郵送による広報 ・公民館の刊行物による広報(各公民館のニュース等) ・ホームページを有効活用した広報 ・声かけや外部へ出向いての説明など	・ポスター、チラシによる広報を実施 ・ホームページにアップした事業75件 ・武蔵野大・市内小中高校等の教育施設および、その他外部施設へのポスター掲示・チラシ配布の依頼	B	◇各種の事業実施には、各公共施設へのポスター掲示、チラシ配布、ホームページへの掲載の他、小中高校・大学等へ幅広く広報されている。 ◆だより・ホームページへ、実施した講座の内容・様子を掲載するなど、公民館事業を多くの市民へ紹介していくことが必要である。ポスター掲示・チラシ配布の協力先の開拓も必要である。	B	◇様々な手法を用いて、幅広く広報していることを評価する。 ◆口コミによる広報の効果は大きいため、顔の見える関係を作り、情報を広めていくことに期待したい。
		学習相談	【学習情報整理】 学習情報の収集・整理・共有化を行い、市民の学習に繋がるような情報提供を行う	・団体一覧の更新(年1回) ・団体の登録の更新(5年に1回) ・各団体の館内掲示物の整理や保管	・定期的な活動をする団体の情報の更新(年1回) ・団体の登録内容の詳細な確認(H30年度予定) ・適切な学習情報の提供 ・サークル紹介冊子の作成・配布 (芝久保・谷戸・ひばり・駅前) ・サークル紹介用ファイル設置(田無)	B	◇定期的に活動する団体の情報の更新を行い、学習情報の整理に努めた。柳沢公民館を除く5館ではサークル紹介資料を作成し、配布・閲覧を行っている。 ◆柳沢公民館は、29年度中にサークル紹介資料を作成・配布する必要がある。	B	◇登録団体に関する情報の整理を的確に実施していることを評価する。 ◆当該年度でサークル紹介資料を作成できていない柳沢公民館を含め、定期的にサークル紹介資料を更新していき、公民館で活動する団体の活性化につなげてもらいたい。
			【窓口対応における学習支援】 市民の学習の質を高め、継続的なものにすることができるよう学習相談を実施する	・窓口・電話による学習相談や情報提供 ・学習活動を行う中で、障害になるような問題や悩みの傾聴とその解決方法の助言をする	・窓口および電話による学習相談や情報提供431件(6館総計)	B	◇窓口及び電話で、市民の求めに応じ団体情報提供や学習相談を行った。 ◆活動団体の活動を継続するための相談に応じるなど、市民団体への相談・支援により一層、取り組む必要がある。	B	◇各館の窓口対応は市民からも大変評価が高い。特に、あまり公民館を利用したことのない市民にとっても、安心できる対応がとられている。 ◆引き続き、個人の資質や能力に頼ることなく、チームとして、質が高く、均一な窓口対応ができるように対応を求めたい。
		対応力	【対応力の向上】 市民本位の視点に立った対応力向上のために職員間の知識・情報の共有に努め、職員研修を行う	・職員研修の実施 ・担当者会議の実施 ・職員情報共有の打ち合わせ実施	・公民館専門員研修1回、新人専門員研修1回 ・各担当者会議 (保育担当11回、市民企画担当8回、公民館だより担当12回、事業計画・事業評価担当13回、障がい者担当4回、防災担当5回、団体情報担当3回)	B	◇関係機関が実施する研修への参加や公民館内での各担当者会議を実施し対応力の向上に努めた。 ◆職員及び公民館専門員研修の更なる充実が必要である。情報を共有するため、6館会議の充実が必要である。	B	◇幅広く担当者会議を実施し、緊密な連携に繋がっている。 ◆研修を受けるだけでなく、振り返りやその後の業務への展開が重要である。また、対応力に十分な職員数が必要不足している。
		ロビー活用	【ロビーの有効活用】 ロビーでの事業を通して、公民館事業の情報を市民に発信すると共に、学びのきっかけとなる場の提供を行う	・公民館主催のロビー企画・展示 ・サークルや市民によるロビー企画・展示 ・主催事業報告の展示 ・いこいや交流の場として提供	・公民館主催のロビー企画・展示70件 ・サークルや市民によるロビー企画・展示85件 ・主催事業報告の展示8件	B	◇全館でロビー活用した企画・展示が実施されるようになり、公民館活動をより多くの市民へ伝える有効な手段となっている。 ◆主催事業報告のロビーへの掲示についても、全館で取り組んでいく必要がある。	B	◇ロビーにおける効果的な活用は大いに評価できる。 ◆ロビーを活用する子ども達も興味を持つ展示や市民が交流できるような仕掛けづくりも求めたい。

	項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
						評価	評価及び課題 [◇…評価 ◆…課題]	評価	評価及び課題 [◇…評価 ◆…課題]
(4)	長期的視点での人づくり	単年度学習成果	【発掘・紹介】 地域に貢献している団体・人の発掘・紹介を行う	・公民館だよりでの団体紹介 ・公民館だよりでの人物紹介	・公民館だよりで団体紹介2件 ・公民館だよりで人物紹介4件	B	◇公民館だよりで団体や人物紹介を積極的に行った。 ◆引き続き公民館だよりで地域の人材資源の発掘・紹介を積極的に取り組む必要がある。	B	◇公民館ならではの人物や団体紹介ができた。 ◆引き続き、多様な市民を取材し、人材の発掘に一層の努力を期待する。
			【学習の継続と成果】 事業参加者の学習活動の総括・学習成果の発表・学習の継続を支援する	・記録誌、記念誌の発行 ・主催講座からサークル化した団体数	・サークルの立ち上げ12団体 ・公民館保育室活動の記録誌発行:年1回 ・主催講座の記録誌発行6冊 ・まつり記念誌発行(田無、芝久保、谷戸)	A	◇主催講座終了後、多くの自主サークルが発足した。記録誌、記念誌も発行された。 ◆自主サークルの学習継続・成果発表の方法等の相談に応じるなど、学習を継続的に続けていくための支援が必要である。	A	◇多くの記録誌・記念誌が作成されたとともに、前年度同様、新しい自主サークルが発足した。 ◆発足した自主サークルをはじめ、多くの自主サークルが成長・発展していけるような支援に努めてもらいたい。
		経年学習成果	【育成と活用】 公民館での長期的な活動を通して、学びを地域に発信・還元する人材の育成・活用を行う	・学びを通して、地域活動を実践する人材の育成と活用 ・地域交流事業等の実行委員会 ・その他、能動的(積極的)に地域活動に関わる人材の育成 ・学習支援保育(※1)の実施	・学習支援保育利用の自主サークル21団体 ・まつり等実行委員会8件 ・活動団体のメンバーが講師として協力する講座の企画事業16件	B	◇実行委員会による地域交流事業(まつり等)を実施している。活動団体への事業への協力依頼など、地域人材の活用に取り組んだ。 ◆実行委員会へ参加する市民にとって学びの場・交流の場となるような支援と援助をする必要がある。	B	◇公民館まつり等、実行委員会形式での運営が多く見られ、市民が実行委員として関わり、主体的に参加することができた。 ◆実行委員となる市民が減少し、高齢化も進んでおり、新たな担い手を発掘できるよう、ベテラン実行委員や職員・専門員の支援の充実が求められる。
			【学びの還元】 公民館で長期的な活動を行う市民・団体を地域資源として活用するとともに、その学習成果の地域還元を支援する	・地域交流事業への参加支援 ・フェスティバル及びまつりの実施 ・公民館ロビーでの展示、発表 ・記録誌の活用 ・学習成果の振り返りのインタビュー、座談会等の実施(ライフヒストリーから見える公民館の意義など) ・市民企画事業の実施(※2)	・フェスティバルの実施(柳沢、田無、ひばりが丘、駅前) ・まつりの実施(田無、芝久保、谷戸) ・ロビーコンサートの実施(柳沢、田無、ひばりが丘) ・市民団体による学習の成果発表数85件 ・市民企画事業の実施40件	B	◇「まつり」「フェスタ」は、学習成果の発表の場・地域の交流の場として、全館で実施している。ロビーを活用の展示・発表も、各館で工夫を凝らして実施している。 ◆公民館活動の検証(座談会・インタビュー等)として、学習成果の振り返りを、行っていく必要がある。	B	◇まつり及びフェスティバルは、学習成果の発表の場や地域の交流の場として、効果を出している。また、ロビーコンサートは、いこいの場としての公民館をアピールできる機会となっている。 ◆新たな利用者の開拓にも視点を置いた取り組みになれば、さらに良い取り組みになると期待する。また、ロビーコンサートを実施していない館でも取り組みを期待したい。
		市民参加	【市民参加の推進】 市民本位の公民館運営の実現のために、館の運営及び事業の企画・運営への市民参加の保障に努める	・公民館運営審議会の開催(月1回) ・市民参加による公民館だよりの作成 ・事業実施のための準備会開催 ・利用者懇談会の開催	・公民館運営審議会の開催12回 ・公民館だより編集室会議開催(市民スタッフの参加)12回 ・市民企画事業実施のための会議16回 ・事業実施のための準備会7件 ・全館で年2回の利用者懇談会を定期開催 ・対象者別利用者懇談会の開催(陶芸:柳沢・芝久保、工作室:柳沢、調理:田無、茶道:ひばりが丘) ・ミニ利用者懇談会の開催(柳沢4回)	B	◇市民、利用団体との意見交換を行い、公民館事業、運営管理に反映させるプロセスを重視している。 ◆左記会議の参加者、団体は固定化の傾向にあり、男性、青少年、壮年等幅広い年齢層及び新規団体等の参加を促す必要がある。	B	◇利用者懇談会は、公民館がカルチャーセンターなどと一線を画す意味で非常に重要な役割を果たしている。 ◆利用者懇談会の役割や意義を公民館利用者に理解してもらえよう一層の努力を期待したい。
			【住民自治力向上の支援】 住民主体の課題解決につながる地域づくりを支援する	・市民企画事業の実施 ・利用者連絡会の設置	・市民企画事業の実施40件 ・利用者連絡会の設置(田無・芝久保)	B	◇講座から発足したサークルを中心に、市民企画事業が活用され、様々な事業が実施され、市民の学習ニーズに応えている。連絡会では利用者の視点で公民館・地域の課題を掘起し、解決策を協議している。 ◆次年度以降の市民企画事業は答申に沿い、実施主体となる新規団体を発掘し事業を展開する必要がある。利用者連絡会の新たな設置、活動中の連絡会に対してはより積極的な支援を行う必要がある。	B	◇市民企画事業が多くの団体に利用されている。 ◆市民企画事業について、平成28年度の答申を踏まえ、具体的な方策を示すとともに、新たな自主サークルや団体が市民企画事業を利用しやすい環境づくりを押し進めてもらいたい。
		地域づくり	【届ける社会教育】 公民館の施設にとどまらず、市内全域で社会教育事業を実施することに努める	・学校、教育施設、市施設の公民館に対する理解を深めるための取り組み ・他施設を利用した主催事業の実施 ・公民館だよりを通して、社会教育的な課題の提供	・学校などの教育施設および、その他外部施設における公民館活動の紹介 0件 ・他施設を利用した主催事業の実施 1件 ・届ける社会教育の実施 2件 ・主に公民館だよりの1面で、地域課題等を掲載した	B	◇公民館を会場に実施する事業から、地域的に公民館が遠い地区で、地域資源を活用した出前講座形式で実施した。公民館だよりの1面には、地域が連携している活動や公民館事業の紹介を行った。 ◆地域の問題を解決する力をつけるため、公民館以外を会場に事業実施や情報提供などを行なっていく。	B	◇届ける社会教育の実施により、公民館から離れた地域に学習機会の提供ができた。 ◆引き続き、届ける社会教育の実施を増やしていくとともに、小中学校をはじめ、その他施設における公民館活動の紹介や事業の実施を期待する。
			重点施策に取り組んだか	3. 新しい公民館運営体制の構築	・利用者懇談会の充実 ・利用者懇談会ニュースの発行・掲示・配布 ・利用者懇談会におけるグループワークの実施 ・柳沢におけるミニ利用者懇談会の実施	B	◇利用団体間の交流の減少や参加団体の固定化などが指摘されるため、それぞれの団体同士の交流や情報発信を行なった。 ◆今後、中央館を中心とした公民館全体の事業を含む運営体制のあり方を検討する必要がある。また、団体同士の交流・情報発信といった、新たな話し合いの場の設置を考える。	B	◇利用者懇談会の充実にに向けた努力は評価できる。 ◆利用者懇談会への参加者が限られており、広く意見を聞く機会となっていないため、あり方を検討する必要がある。また、中央館としての柳沢公民館の役割が見えないため、運営体制のあり方を見直し、より市民が利用しやすい魅力ある公民館運営を期待する。

■※1. 学習支援保育とは…乳幼児を育てている市民に対して、多様な学習機会を保障し、出会いと学びあいの機会を生み出すような公民館の公費保育制度です。親子の学びと成長を継続的に支え、学びの成果を地域へ発信・還元できるように支援します。

■※2. 市民企画事業とは…市内の自主グループが企画した事業を一定の審査の上、公民館事業として実施するものです。自主グループが日頃の活動で培った知恵やノウハウを生かして市民にさまざまな学習機会を提供し、地域を豊かにすることが目的です。